

Tottori uniQ

「とっとりユニーク」とは

鳥取大学は独自の知を活用し、地域に世界に“Unique”を発信していく拠点です。この姿勢を表明するコンセプトワードとして、Univではなく“UniQ”と表現しました。あえて英文字を短縮しQを強調したのは、世の中に問い=Questionを投げかけ、世界を変えていくために探究=Questする意志を表すためです。

鳥取大学でユニークが生まれる理由

鳥取県ならではの自然・社会環境をフル活用

鳥取砂丘をはじめとする稀有な自然環境や、人口最少県ならではの行政との結びつきの深さが独自の取り組みを生み出す源泉です。

学部の垣根を超えて知を融合する新たな試み

現代の社会問題の解決には既存の知だけでは不十分。鳥取大学は医学と工学、医学と獣医学など他分野の知を積極的に融合させて解決策を探ります。

人口減少社会へのオリジナルアプローチ

鳥取県は今後日本が直面する深刻な社会課題にいち早く対応する「課題先進県」。この課題に積極的に立ち向かい、変革力を磨いています。

次の日本を背負うユニークな人材が集結

独自性の高い大学だからこそ鳥取大学には全国からその分野の最先端を探究する研究者たちが集い、ユニークをさらに磨き上げています。

地域未来共創センター(愛称:Tottori uniQ) それは「とっとりユニーク」を具現化する拠点

鳥取大学は地域とのさらなる協働を通じて未来社会を創造することを目指し、「地域未来共創センター」(愛称:Tottori uniQ)を新設します。県内19市町村をはじめとする多様なステークホルダーと連携し、地域課題の発掘から解決策の構築、社会実装までを一体的に担います。また、学生に対してはアントレプレナーシップ教育を展開し、地域に根ざした起業的思考や実践力を育成します。

世界を変えていく
大学へ！

鳥取大学長
原田 省

鳥取大学は農学部100年、医学部80年、工学部60年、地域学部20年という歴史の中で、ほかにない高度な知的資産を築き、類まれなる人材を輩出してきました。しかしまだ、そうした価値は広く認知されているとは言えません。今後私たちは本学のユニークな知を、現代社会の難問解決に活かし、世界を変えていく大学を目指します。新たに歩みだす鳥取大学にご期待ください。

課題解決を
次のフェーズへ！

鳥取県知事
平井 伸治

鳥取県の取り組みを県外の方とお話すると、大学との密な関係に驚かれることがよくあります。人口最少県である当県は、鳥取大学との連携を積極的に活かし、地域課題の解決に努めてきました。この度、鳥取大学が新拠点を設けて新たな活動をはじめることは、共創活動がさらに次のフェーズへ発展すると大いに期待しています。私たちも大学と二人三脚で地域に働きかけ、次の時代の希望を具現化していきます。

鳥取大学の挑戦へ ご支援のお願い

いつも温かいご支援をいただきありがとうございます。

鳥取大学のユニークな教育、研究に皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。
趣旨をご理解の上、ご賛同いただき、格段のご篤志を賜りますようお願い申し上げます。

目的	地域および日本全体に活力を生み出し、世界を変えていく、鳥取大学ならではの独自性の高い教育・研究活動をさらに高度に発展させていくために財政基盤の充実を図ります
使途	<u>みらい基金</u> 教育研究支援、学生支援、修学支援、国際交流支援、地域貢献支援、若手研究者等支援、附属学校園支援等に係る各種事業の支援
申込み方法	ご協力をお願いする寄附金 ご寄附 1口1,000円 (1口1,000円から何口でも結構です) インターネットからのご寄附(クレジット決済)／郵便局(ゆうちょ銀行)・銀行振込でのご寄附

本基金への個人からのご寄附は、「所得控除」「税額控除」の適用対象となります。
法人からのご寄附は全額損金算入可能となります。

詳しくはご案内サイトで
ご確認ください。

鳥取大学 みらい基金

検索



アリドドーム実験施設
乾燥地のシミュレーション実験を行う大型の人工環境制御施設

世界を変える

Tottori uniQ

とっとりユニーク

鳥取大学の挑戦に
ぜひご支援を

鳥取発のユニークが、 明日の世界を 変えていく。

奇跡の小麦
乾燥地でも収穫可能な
鳥取大学発のユニーク

いま日本全国の各地域で、その土地ならではの資産を活かし、社会に新しい価値を創造する挑戦が進められています。都市部でなくても、発想次第で新たな風は起こせます。鳥取大学も広大な砂丘を活用した乾燥地科学研究や人口最少県という環境を逆手にとった社会課題研究など、地域の特性を活かし、独自の視点で高度な知を築き、世界を変えていく“ユニーク”を発信していきます。そこに私たちならではの未来を描いていこうと挑んでいます。あなたもぜひ、共に歩んでいただませんか。

皆さまのご寄附が本学の挑戦のチカラになります

磨かれた独自の知 学部を超えた共創 世界の課題を解決する

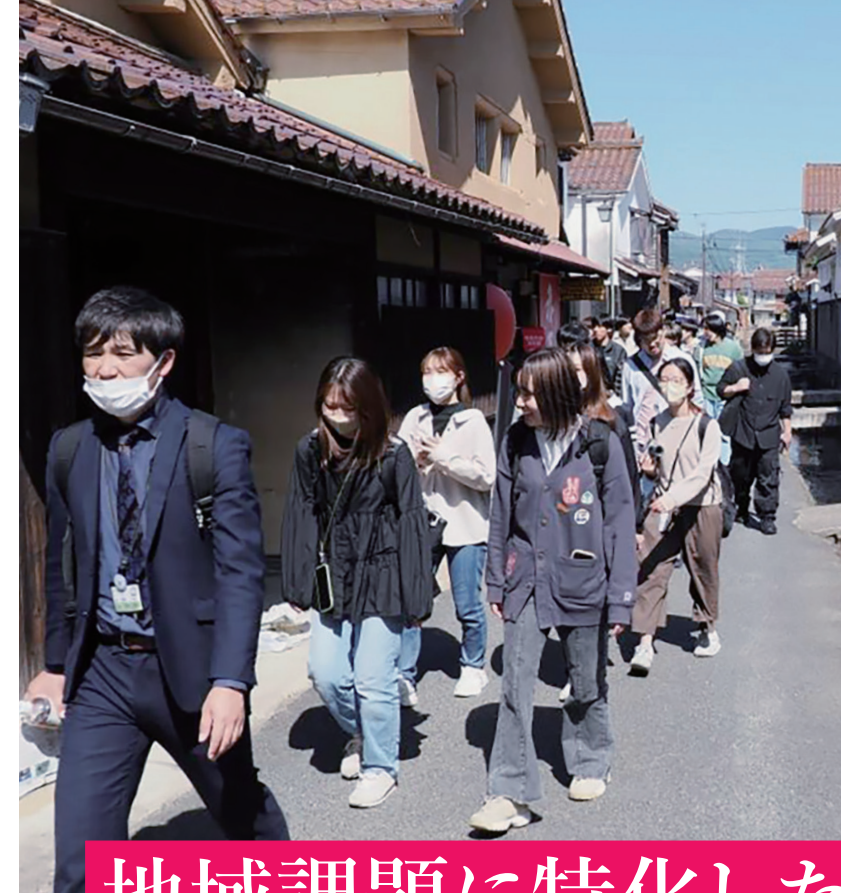
Tottori uniQ
とっとりユニーク



世界の砂漠化に挑む 日本の最先端

世界の陸地の最大40%が劣化しているとも言われ、砂漠化問題は地球の脅威となっています。鳥取大学乾燥地研究センターは砂漠化問題に総合科学で挑む、国内唯一の研究機関。

鳥取砂丘という稀有な環境を活かし、40℃を超えるアフリカでも実る「奇跡の小麦」をはじめユニークな成果を次々に生み出しています。



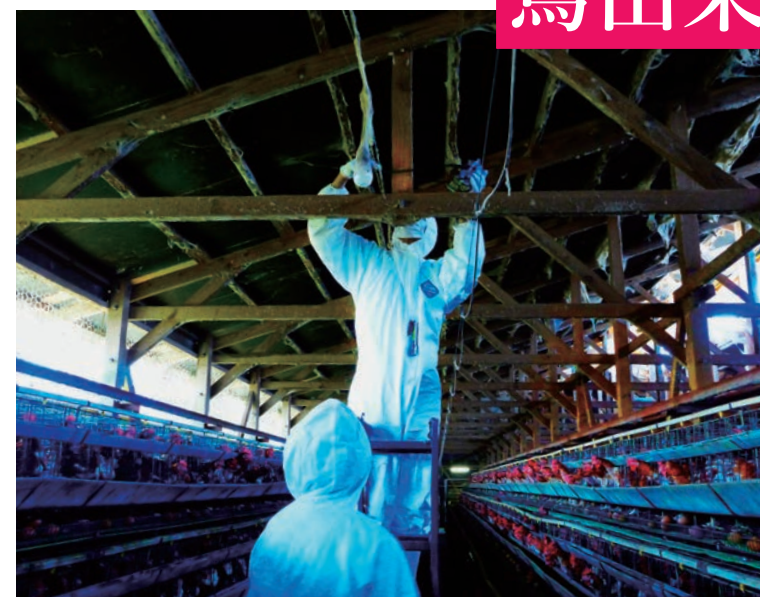
地域課題に特化した 鳥大式教員養成

地域の特性・課題を理解した教員が子どもたちを育む。そんな教育が地域活性化につながるという思いから、鳥取大学では教員を目指す学生を教育学部ではなく、主に地域学部で育てます。この独自性が地域への向き合い方を強く意識した教員へと成長する環境を作ります。今後もさらなる充実、独自の取り組みを検討していきます。



世界を襲う 鳥由来感染症の脅威と闘う

鳥インフルエンザは近年世界的に拡大している脅威。鳥取大学では半世紀近くにわたる鳥由来感染症制御の実践的研究などで独自性を発揮。国内の鳥インフルエンザ発生時には関係省庁や自治体と連携し、発生要因の究明など疾病制御の最前線を担っています。本学では、獣医学、生態学、食品流通、医学、工学など全学の専門家が連携し学際的研究を推進しています。



開腹手術に比べ体の傷が小さく、早期の社会復帰が可能な低侵襲ロボット手術。鳥取大学医学部附属病院では2010年からロボット手術を実施し、これまでに3,500件を超える実績を誇ります。

ダビンチ、ヒノトリ、ヒューゴという3機種のロボットを駆使する医療機関として、全国の中でも独自の地位を確立。それぞれ特長の分析や術式開発、活用人材の育成を推進し、今後は工学部と連携してロボット開発にも挑みます。

低侵襲ロボット手術を 日本の常識に



難病治療や創薬に ゲノムイノベーション

治療方法がまだ確立されていない難病の克服、副作用が少ない抗体医薬品の開発…。染色体医工学への期待が高まっています。鳥取大学染色体工学研究センターは、同分野を探究する世界唯一の専門機関。次世代医療の開発につながる基盤技術として、革新的な染色体ベクター（HAC/MACベクター）の開発に成功。この技術を実社会に活かすスタートアップ企業を設立し、新しい産業の創出にも挑んでいます。

鳥取大学は学生一人ひとりに貴重な経験を積んでもらうために学中の「起業」を推奨。新たに整備される地域未来共創センターを中心に、地元企業、投資家、金融機関などと連携し、1ヵ月にわたるイベント

「スタートアップフェス」などを開催予定。こうした独自の実践的取り組みで、意欲ある学生と支援者をつなぎ、スタートアップ立ち上げの機会創出を目指します。

起業家輩出力全国1位(人口比)※ 鳥取県から社会を変える



※市区町村が創業支援等事業計画で輩出した起業家数を都道府県別に集計し、人口10万人あたりで比較。2023年度時点。出所は中小企業庁

鳥取発の宇宙開発 JAXAとの実証実験も

鳥取県は2023年から、砂丘に月面実証フィールド「ルナテラス」を設け、大企業とともに宇宙産業創出を推進。こうした動きを受け、鳥取大学でも宇宙工学研究をさらに活発化。特に宇宙推進工学研究室・流体工学研究室では、探索を終えた宇宙船が高速で大気圏に突入する際、プラズマを操作して機体を減速させ、周囲の温度を下げる研究を進めており、近年中にJAXAとの実証実験も予定しています。

